

【日本貿易統計（22 年 8 月）】

貿易赤字が一段と拡大

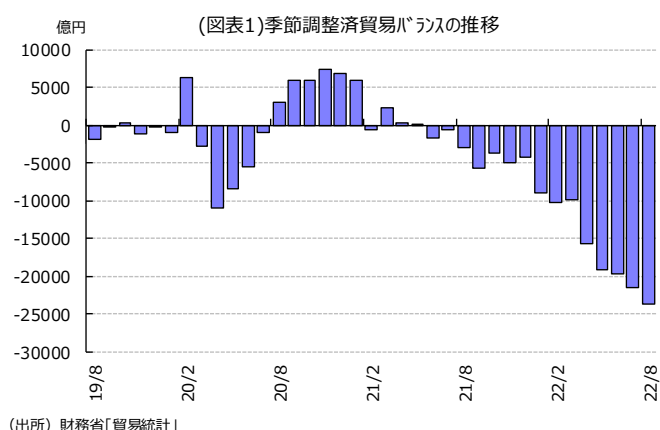
～今後も高水準の赤字が続く可能性大～

経済調査部 エコノミスト 前田 和孝

1. 季調済の貿易収支は15ヵ月連続の赤字

財務省から発表された8月の貿易統計によると、輸出金額は前年比+22.1%と、7月の同+19.0%から伸び幅が拡大した。輸入金額は同+49.9%で、こちらも前月（同+47.2%）の伸びを上回った。

季調済前月比では、輸出金額が▲0.7%、輸入金額が同+1.5%で、輸出は2021年9月以来のマイナスに転じた。この結果、季調済の貿易収支は▲2兆3,713億円と、15ヵ月連続で赤字となり、赤字幅も前月から拡大した（図表1）。エネルギー価格の高止まりを背景に、輸入金額の伸びが輸出金額の伸びを大きく上回る状況が続いている。

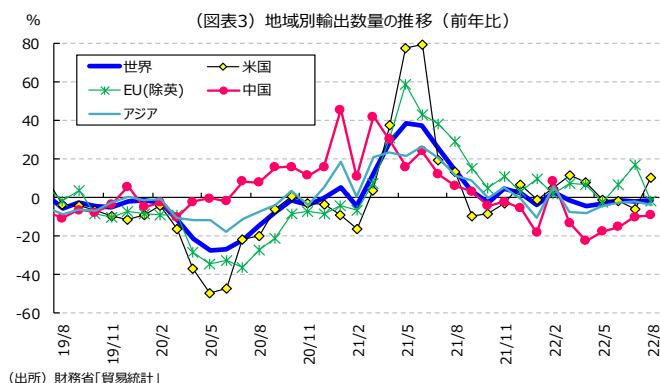
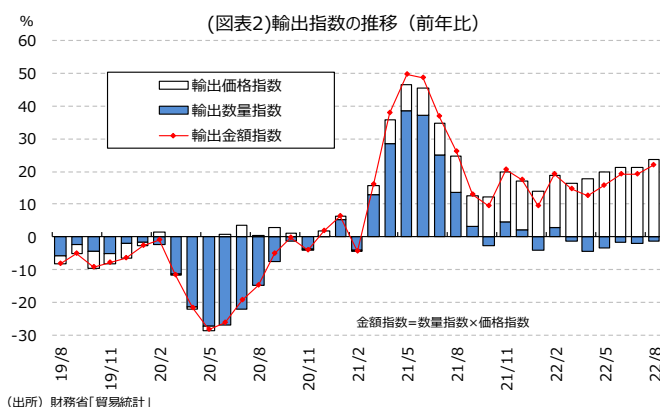


2. 中国向けの持ち直しは鈍い

輸出金額の前年比を価格と数量に分解すると、価格指数が前年比+23.5%、数量指数が同▲1.2%となっている。数量指数はこれで6ヵ月連続のマイナスで、輸出の実勢は弱いままである（図表2）。

主要相手国・地域別の数量指数を見ると、米国向けが同+10.5%（7月：同▲5.6%）、EU（除英）向けが同▲1.5%（同+17.4%）、中国向けは同▲9.0%（同▲9.9%）となった（図表3）。米国向けは4ヵ月ぶりのプラスで、品目別では、半導体等製造装置が同+108.6%と2倍以上伸びたほか、自動車も同+13.4%と6ヵ月ぶりにプラスに転じた。EU（除英）向けは3ヵ月ぶりのマイナスとなった。鉄鋼が同▲76.6%と、前月（同▲26.2%）からマイナス幅を拡大させたことなどが影響した。

中国向けは6ヵ月連続のマイナスで、上海ロックダウンが6月1日に解除されて以降も、持ち直しの動きは鈍いままである。内訳を見ると、自動車が同+19.6%と2



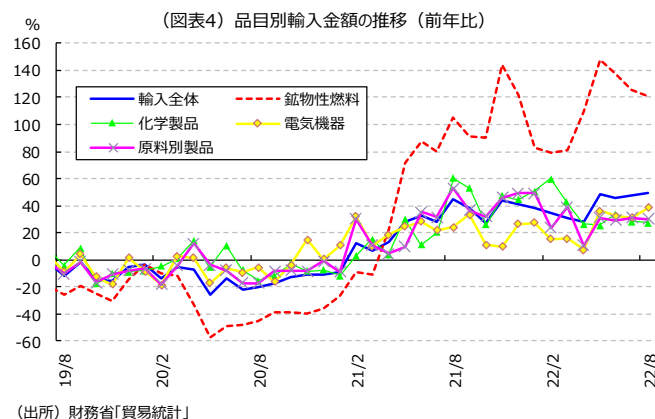
割近い伸びとなる一方、半導体等製造装置（同▲4.4%）、プラスチック（同▲14.9%）、鉄鋼（同▲17.0%）などといった品目がマイナス圏に沈んでいる。

3. エネルギーの輸入金額は高止まり

輸入金額の前年比を価格と数量に分解すると、数量指数が前年比+2.8%なのに対して、価格指数は同+45.9%と、4割以上の伸びが続いている。

品目別では、構成比で約32%を占める鉱物性燃料が前年比+121.1%（寄与度：+26.0%ポイント）と、輸入金額増加の主因となっている状況は変わらない（図表4）。内訳を見ると、原油及び粗油が同+90.3%、液化天然ガスが同+140.1%、石炭が同+241.0%と、いずれも高い伸びとなっている。一方、数量ベースでは、原油及び粗油が同+1.5%、石炭は同+6.7%と小幅の伸びにとどまったほか、液化天然ガスは同▲0.4%と小幅のマイナスで、金額ベースの伸びのほとんどが価格要因という状況である。

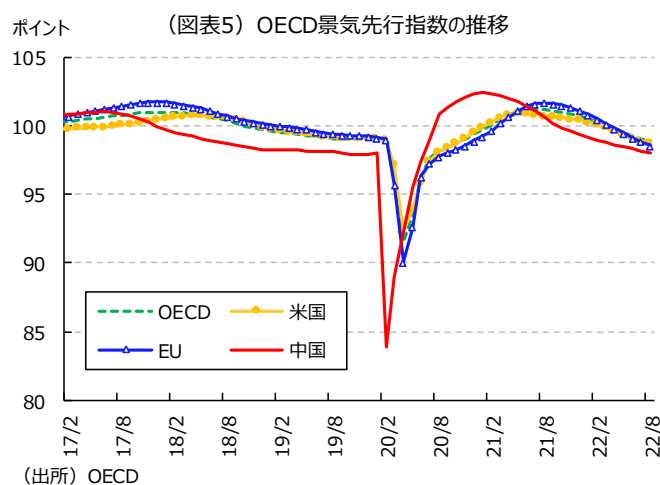
鉱物性燃料以外の主要8分類の輸入金額を見ると、食料品が前年比+35.0%（寄与度：+3.1%ポイント）、原料品が同+24.3%（同+2.1%ポイント）、化学製品が同+27.3%（同+3.3%ポイント）、原料別製品が同+30.5%（同+2.9%ポイント）、一般機械が同+27.2%（同+2.4%ポイント）、電気機器が同+38.4%（同+5.4%ポイント）、輸送用機器が同+10.7%（同+0.4%ポイント）、その他が同+33.3%（同+4.4%ポイント）となっている。鉱物性燃料ほどではないものの、円安の影響などもあって、いずれも二桁の伸びが続いている。



4. 輸出は停滞気味の推移が続く

今後も輸出は停滞気味の推移が続く可能性が高い。FRB（米連邦準備制度理事会）の利上げペース加速で、米景気の先行き不透明感が増しているほか、中国経済は、ゼロコロナポリシーや共同富裕の理念に基づくマクロ経済運営の下、引き続き低空飛行が予想される。ロシアに絡んだエネルギー問題が深刻なユーロ圏は、景気の下振れリスクが大きいなかでも、ECB（欧州中央銀行）が利上げを進める意向を示している。主要国の OECD 景気先行指数を見ると、軒並み低下基調をたどっている（図表5）。半導体不足などの供給制約の緩和で、ここに来て自動車輸出が持ち直しつつあるのは好材料だが、米中2大経済大国の低迷が続くようなら、日本の輸出が勢いを取り戻すのは難しい。

一方、輸入金額は当面高止まりが見込まれる。足元の原油価格は落ち着きを取り戻しつつあるものの、依然として高水準で推移している（図表6）。ウクライナ情勢は



引き続き膠着状態が続いているほか、ロシアは欧州向けの天然ガス供給を停止するなど揺さぶりをかけている。こうした状況を踏まえれば、エネルギー価格が再び高騰するリスクは残る。日米の中央銀行の金融政策の違いを反映して、円安が進んでいることも輸入金額の押し上げ要因となる。貿易赤字は高水準の状態が続く公算が大きい。

※本レポートは、明治安田総合研究所が情報提供資料として作成したものであり、いかなる契約の締結や解約を目的としたものではありません。掲載内容について細心の注意を払っていますが、これによりその情報に関する信頼性、正確性、完全性などについて保証するものではありません。掲載された情報を用いた結果生じた直接的、間接的トラブルや損失、損害については、一切の責任を負いません。またこれらの情報は、予告なく掲載を変更、中断、中止することがあります。

●照会先● 株式会社 明治安田総合研究所 〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-11 TEL03-6261-6411